

衆議院選挙結果と私たちの課題

藤井克彦

安倍首相は、野党が要求していた臨時国会開催を3ヶ月も放置し、選挙に有利な情勢と見るや9月28日に臨時国会を開き、何の審議もしないままに冒頭解散を強行しました。まさに森友・加計問題隠しであり、無茶苦茶な解散です。

衆議院解散の日、民進党前原代表の主導のもとで民進党が小池代表の「希望の党」への合流を決定しました。しかし、希望の党の小池代表は、現実的な安全保障、すなわち憲法違反の戦争法廃止の拒否や憲法改正を掲げて、これを踏み絵にした上で選別しリベラル派などを排除しました。排除されたり、希望の党に行かなかった人は、市民に後押しされて枝野さんが立ち上げた立憲民主党に入ったり、無所属として立候補しました。投開票は10月22日でした。

【全国の選挙結果】

465 議席中、自民 281、立憲民主 54、希望 50、公明 29、共産党 12、維新 11、社民 2、無所属 26。

(1) 与党の「勝利」の中味

自民は9議席減、公明は6議席減でしたが、与党310議席で「勝利」と言われています。突然の解散、野党の乱立などの要因が挙げられています。しかし開票翌日の閣議は、沈痛な雰囲気でした。なぜなら、安倍内閣の不支持率が支持率を上回ったからです。

全国 289 の小選挙区での自民候補の得票率は47.8%ですが、獲得議席は74%となり、民意を表さない小選挙区制の問題が指摘されています。また、全有権者に占める割合（絶対得票率）は、自民小選挙区で25.0%、比例で17.5%です。下野に追い込まれた2009年衆院選ですら、前者は26.3%、後者で18.1%であり、今回の自民は歴史的惨敗を喫した2009年よりも低調だったのです（中日新聞）。

(2) 立憲民主が第一野党

選挙直前の10月3日に結成された立憲民主党は、準備がまったく整わないままでしたが、希望の党より獲得議席は多く、第一野党となりました。「自民党と希望の党の保守二大政党時代」を狙った希望の党結党者の思惑に有権者は不快感を示し、リベラル派を歓迎したのではないのでしょうか。

選挙後、枝野代表は「永田町の数合わせ、権力ゲームとは距離をおく。国民の方に向いていく」と発言しました。この姿勢は、大変大事と思います。

なお立憲民主党結成は、ピンチをチャンスに変えたと言えます。民進党の中でリベラル派は少数で、かと言って飛び出してリベラル派として独立するきっかけも力もなかったからです。

(3) 希望の党の大失速

希望の党結成時マスコミは連日報道し、自民党も脅威を感じるほどでしたが、振るいませんでした(7議席減)。民進党からの合流に対して、「当然選別・排除する」という趣旨の発言をしたことがその原因だと言われますが、今までの小池氏の振る舞いを見て評価したのだとも言われています。

(4) 共産党の議席減は残念

共産党は9議席減の12議席で、大きく後退したのは、残念です。

社民党は、2議席を維持しました。

(5) 沖縄選挙区をどう見るか

沖縄の4小選挙区では、オール沖縄の赤嶺（共産党、1区）、照屋（社民党、2区）、玉城（無所属、3区）が当選。4区は仲里（無所属）が自民西銘に敗れました。この結果について、オール沖縄の影響力が弱まったという見方がありますが、間違った評価です。2014年総選挙では、辺野古新基地建設に賛成する4人が小選挙区で落選し全員が比例で復活。この4人が今回の小選挙区にも出たが、一人が小選挙区で当選。他の3人の内2人は比例でも復活できなかった。だから辺野古新基地賛成者は、今回2人減少したのであり、沖縄の圧倒的多数の民意が辺野古新基地建設に反対だと再度確認された（佐藤優は中日10/27）、というわけです。

(6) 改憲派が8割は、大変厳しい結果

中日新聞10/24によると、当選後の追加公認（自民3人、立憲民主1人）を踏まえると、自民284、公明29、希望50、維新11で、改憲勢力は374となり、改憲派が8割を占め、厳しい結果です。

なお公明党山口代表は、選挙前希望が第一野党になることを想定してから「憲法改正は第一野党の合意が必要」と言っていたのですから、立民が第一野党になった現状でも、このことを実行すべきです。

(7) 野党共闘に関して

4月5日、民進党・共産党・自由党・社民党の野党4党と市民連合は、次の衆議院選挙で、安全保障関連法の廃止、立憲主義と平和主義を脅かす憲法改

悪の阻止、教育の原則無償化、「原発ゼロ」を目指すことなどを共通して訴えていくことで一致しました。

しかし民進党は、蓮舫代表辞任後の代表選で枝野氏に勝った前原氏は、衆議院解散当日に両院議員総会を開き、十分な説明のないまま民進党の希望の党への合流を「提案」し、参加者が選挙を前にとりあえず了承せざるを得ない状況に追いやりました。

市民連合は、9月26日に野党共闘に関する要望をして共産党と社民党の了承を得、10月3日立憲民主党が設立されたことを受け枝野代表と面会し、選挙協力で基本的に合意しました。こうして立憲野党3党と市民の新たな共闘態勢が整いましたが、新たな野党共闘は、全国的にはどうだったでしょうか。

共産党が候補者を立てなかった83選挙区のうち32選挙区で共闘する立憲民主党、社民党、無所属の候補が勝利しました(赤旗10-24)。一方、63選挙区中22選挙区で立憲民主と共産党とが競合し、18選挙区で社民党と共産党が競合したとのことです。

【愛知県選挙区での結果】

私たちは、市民と野党をつなぐ会@愛知を昨年11月に結成し、各区(15選挙区全部ではない)で立憲野党に働きかけて野党共闘の運動をしてきました。

① 野党共闘が成立したのは、1区(立民:吉田)、3区(立民:近藤)、5区(立民:赤松)で、1区は敗北しましたが比例代表で復活当選。7区(無:山尾)は公式には野党共闘と言いませんが、共産党が候補者を取り下げ、実質野党共闘と言えるでしょう。

② 他の小選挙区での当選者は、自民8名、希望3名、無所属1名(12区:重徳氏)。

③ 愛知県内の比例代表得票数は、立憲民主党は希望の党を約5万票引き離す744,025票を獲得。自民は前回に比べ約2万票増の1037,196票。公明は約800票増の371,712票。共産党は前回から約9万票減の218,809票。維新は148,225票。

東海ブロックの当選者数は、自民8議席、立民4議席、希望5議席、公明2議席、共産党1議席、維新1議席、社民0議席(ただし、立民は5議席枠あったが、立候補者数が足りず自民に枠が行く)。

④ 私が関わった愛知4区では、つなぐ会・市民アクションの働きかけで9月24日に民進党、共産党、社民党、新社会党、緑の党の合意で、民進党の牧義夫氏を野党統一候補とすることを確認。しかし民進党の希望の党への合流問題で、私たちの反対を押し切って牧氏も希望の党公認で出馬を決定。希望

の党は政策的に私たちとは相容れない政党であり、10月3日に民進党・希望の党をのぞく上記政党・政治団体による呼びかけて協議し、「安保法制廃止・9条改憲反対」を掲げる立憲野党からの立候補予定者は共産党の西田とし子さんだけなので、10月7日に西田さんを推薦し政策協定を結びました。

結果は、自民工藤76,446票、希望牧63,207票、西田29,885票(17.6%)。西田さんの票は、前回衆院選の4区小選挙区票を8057票はるかに上まわり、得票率では2000年の総選挙以降で最高。当選とまでは至りませんでした。大善戦でした。

【選挙後の課題】

(1) 野党の動きと課題

① 希望の党は、11月10日共同代表に安保法は違憲という大串博志衆院議員ではなく、安保法容認の玉木雄一郎衆院議員を選びました。選出後玉木氏は「補完勢力にならない」と言いつつ「改憲議論をリードする」としています。残念ながら、希望の党を立憲野党にさせることは困難な状況です。

② 民進党は大塚耕平議員(愛知)を代表に選び、参院では民進党・新緑風会47名が野党第一党です。衆院では立民・市民クラブ54名が野党第一党です。この「ねじれ」により、与党の支配、統制を安易に許し、「野党の言い分」が通らなくなってしまう、参議院における法案修正を停滞化させるおそれがある、両院合同で行う委員会の日程設定・運営に影響が生じるなど、野党がバラバラでは政府・与党を利するだけなのです。だから、衆議院、参議院で「統一会派」を結成することが重要だと南部良典氏は指摘しています(院内では、政党ではなく会派が活動単位)。

(2) 安倍改憲NO!の大運動を!

改憲派が8割を占めました。大変厳しい状況ですが、「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」が呼びかけて、「安倍9条改憲NO!憲法を生かす全国統一署名運動」が始まっています。3000万人が目標ですから、よほど腰を入れて取り組む必要があります。周囲の人に署名を依頼するだけでなく、各居住地で戸別訪問をして署名をお願いする意気込みで取り組んで、改憲NO!の声を大きく拡げることこそ、3000万人署名の目的だと思います。

今まで地域で野党共闘の運動をしてきたグループが、安倍改憲NO!の運動、3000万人署名を取り組んでいくのがやりやすいし、重要だと思います。

みんなで頑張りましょう! (2017-11-10)